

ばれっと

まだ*これ 合併号

2012
1月
No.149

●目次

- P2~3 復興に向かって
- P4~5 報告 3.11からのサポセンの取り組み
- P6 市民活動サポートセンターからのお知らせ

ともに、前へ！仙台

東日本大震災 特別号⑩

仙台の冬の風物詩「SENDAI光のページェント」(主催:一般財団法人SENDAI光のページェント、2011SENDAI光のページェント実行委員会)。イルミネーション用のLED電球が保管されていた倉庫が津波で全損し、一時、開催も危ぶまれましたが、表参道イルミネーション実行委員会、大館シャイニングストリート実行委員会など全国から支援が集まり、無事に開催されました。

今回のスローガンは「光の和、想いをひとつに!」。12月2日(金)~12月31日(土)まで、約一カ月にわたり、復興へ向けた希望の灯りが、年末の街を明るくライトアップしていました。



▲けやき並木を彩るSENDAI光のページェント

東日本大震災 ～その時～

復興に向かって

東日本大震災後の復興のまちづくりについて、多くの市民と語り合い、“何ができるか”を考えてみよう、と、2011年7月と11月に「せんだい市民カフェ」が開催されました。

「せんだい市民カフェ」とは、仙台のまちづくりについて市民誰もが気軽に語り合える場として、仙台市と仙台市市民公益活動促進委員会が協力して開催しているものです。今回は、その話し合いの様子をご紹介します。

■ 復興×若者×まちづくり

第1回目の「せんだい市民カフェ」は、7月24日（日）に開催され、3月11日の東日本大震災を乗り越え、これからの仙台の復興を担う若者たちが集いました。参加者は約40人。大学生を中心に中学生や高校生の姿も見られ、会場となったサポセン地下の市民活動シアターは、若者の熱気でいっぱいになりました。

まずは、若者たちがこの震災を受け、それぞれが復興のまちづくりに関して感じていることや思いを自由に話し合いました。各グループには仙台市市民公益活動促進委員会の方々がファシリテーター



◀市民活動シアターは若者たちでいっぱい！

ター役として入り、若者たちの思いの整理を手助けしていました。そして最後に、話し合いをまとめたものを発表。

「お互いの思いを共有していく場が必要」「若者のパワーと気持ちを生かす場所をつくる」「仙台みんなのプラットフォームをつくっちゃおう」など、提案のキーワードは「つながり」と「場所」。若者たちの思いを、復興のデザインへとつなげていく第一歩となりました。

また、この催しをきっかけに、若者たちが自主的にグループを立ち上げ、復興に向けた活動を始めようという動きも出てきました。



▲若者たちが、奥山恵美子市長(左)に、自分たちの「提案」をアピール

■ 復興まちづくりを考えよう

第2回目は、せんだいメディアテークを会場に、11月23日（水・祝）に開催され、市民の方々約70人が集まりました。

まず、新潟県中越地震直後から山古志村の災害ボランティア活動に関わってきた稲垣文彦さんによるゲストトークが行われ、「これからめざす復興とは、経済の成長という物差しで計るだけでなく、地域にとっての豊かさを見直し、探し求めていくものではないでしょうか。中越での取り組みの中にも何かヒントがあるかもしれません。一緒に考えていきましょう」と、仙台へのメッセージをいただきました。

また、新潟県中越地震後の支援活動事例として、被災者とボランティアのつながりのなかから、高齢者と子育て中のお母さんたちが結びつき、それぞれの課題解決に取り組んでいるNPO法



◀ 稲垣文彦さん
2005年中越復興市民会議を創設し事務局長を経て、現代表。社団法人中越防災安全推進機構・復興デザインセンター長を兼務

人「多世代交流館になニーナ」や、山古志村の元気なお母ちゃんたちが運営する農家・地域食材レストラン「山古志ごっつお多菜田」などの活動を紹介。地域資源を生かし、賑わいを取り戻してきた支援活動は、とても興味深いものでした。

* * * *

続けて、実際に仙台市内で活動をされている4人の方々から、取り組みが発表されました。

事例A

●地域の「つながり」を考える

NPO法人市民福祉団体全国協議会
復興支援仙台事務所 藤田佐和子さん



▲藤田佐和子さん

仙台市内の仮設住宅で「パラソル喫茶」活動を展開しています。そこでは茶飲み会や食事会などが催され、被災者同士がほっと一息くつろげる、交流の場となっています。つながりは、人との出会いから始まります。

これからも、ふれあう場としての居場所づくりをしながら、被災者と寄り添い、ともに支えあう取り組みを行っていききたいです。

事例B

●子どもを地域で育む

NPO法人アスイク
大橋雄介さん



▲大橋雄介さん

震災直後から、被災した子どもたちへの学習サポートに取り組んできました。活動を通して、被災した子どもたちと、震災以前から問題視されていた貧困家庭の子どもたちを取り巻く環境はとても似ていると感じました。

この震災をきっかけに、子どもたちへの支援活動を進めていく中で、子どもの貧困問題の解決にもつなげていきたいと思っています。

事例C

●地域資源を生かした賑わいを創る

NPO法人冒険あそび場ー
せんだい・みやぎネットワーク
米倉正子さん



▲米倉正子さん

震災前から、生産者と消費者を結び、食文化の継承や食育を行う若林地産地消ショップ「産直広場ぐるぐる」を運営してきました。震災後は、出張販売を行いながら仮設住宅で芋煮会や収穫祭の開催、農地復旧のお手伝いと、地域のつながりを大事にした支援活動に取り組んでいます。

作る人、売る人、買う人、誰もが気軽に集まり楽しめる場づくりを通して、地域の資源を大切に伝え合う地域づくりを行っていきます。

事例D

●体験を記録する・記憶を伝える

NPO法人20世紀アーカイブ仙台
佐藤正実さん



▲佐藤正実さん

市民の記憶遺産として震災の画像を後世に残し、震災の風化を防ぐため、市民の撮った画像を収集し記録保存する活動を行っています。この震災を市民の目線で捉え、いろいろな角度から撮影した写真に意味があると考え、広く画像の収集を行いネット上で公開するとともに、パネル展などを開催してきました。

これから復興が進む中で、震災のシンボリックなエリアを抜き出し、定点観測を行っていこうと考えています。

**■“わたしたちのアクション”
を考える**

ゲストトークと話題提供を受けて、市民一人ひとりが、復興のまちづくりに向けて考えてみようと、参加者が8つのグループに分かれてワークショップを行いました。各グループには、話題提供者も加わり、活発な意見交換が行われました。

参加されたみなさんは、各グループの意見をまとめた発表を聞きながら、“わたしのアクション”のヒントをつかみ、また行動を起こす勇気と元気をもらっていたようでした。

まずは、市民一人ひとりが考え、行動を起こ



▲ワークショップを行う参加者のみなさん

す。そして、それらがつながることで復興のまちづくりへの大きな力となっていくのではないのでしょうか。
(葛西 淳子)

仙台市市民活動サポートセンター

■□報告 3.11からのサポセンの取り組み ■□

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちの暮らす地域に甚大な被害をもたらしました。震災後は、復旧・復興のため、多くの市民活動団体、NPO・NGO、企業等が被災者支援・復興支援活動を展開しています。

仙台市市民活動サポートセンター（以下、サポセン）では、仙台、宮城、そして東北の一日も早い復興を目指し、3月28日から9月30日までの期間、震災復興支援活動のサポート拠点として運営を行ってきました。また、10月1日からの一般利用再開後も、引き続き市民による復興支援活動を応援しています。



▲震災直後から3月28日まで、出勤できるスタッフが、情報収集等を行いました。

◆ サポセンの復興支援重点項目 ◆

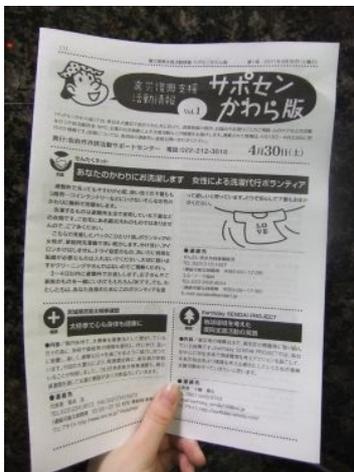
- ①復興支援活動にかかる情報収集・発信
- ②復興支援活動にかかる相談対応
- ③地域コミュニティでの支援（主に宮城野区、若林区）

●情報収集・発信

(1) 震災復興支援活動情報サポセンかわら版

震災後の市民活動団体による活動を中心に、救援活動・復興支援活動に関する情報を紹介する「震災復興支援活動情報 サポセンかわら版」を発行。4月22日発行の準備号から、12月25日発行の20号まで、のべ55,000部を避難所、公共施設などで配布し、被災者・市民へと震災復興支援活動の情報をお届けしました。

なお、12月からは仙台市の「復興定期便」に同封し、借上げ民間賃貸住宅を含めた個々の仮設住宅入居者の皆さんへお届けすることで、被災者のお悩みやお困りごとの解決の一助として活用していただいています。



▲サポセンかわら版

復興支援活動の情報は、3月28日以降、復興支援活動の拠点としてサポセンをご利用の際に提出していただいた「復興支援活動団体紹介シート」や、サポセンに持ち込まれるチラシ、新聞、インターネット等を主な情報源として収集。9月30日までの団体紹介シート提出数は、308件でした。

被災地で多様な支援活動が展開される中、支援活動をまとめて掲載したサポセンかわら版は、「支援情報が一覧でき役立った」「かわら版を見ての問合せがあり活動につながった」等、団体の方々にも重宝された情報源となりました。

(2) わすれんTV311

「生放送!サポセンかわら版~支援のかたち~」

せんだいメディアテークに開設された「3.11をわすれないためにセンター」と協働で、インターネット放送を利用して市民活動団体、NPO等が行っている復興支援活動を広く伝える番組を作成・配信。毎回テーマを設けてゲストを招き、支援のきっかけと活動の様子、今後についてを座談会形式で伺っています。ゲストの方々には、お互いの支援活動に共感しながら、新たな支援の可能性を見出す機会にもなったようでした。

そしてなにより仙台市外、宮城県外の地域へ向け、被災地における支援活動情報を発信できたことが、インターネット放送の強みでした。

過去放送アーカイブアドレスから、これまで放送した第0回（パイロット版）～第10回までの放送が視聴できます。

◆放送アドレス：<http://recorder311.smt.jp/>

◆過去放送アーカイブアドレス：

<http://recorder311.smt.jp/tag/「サポセンかわら版」>

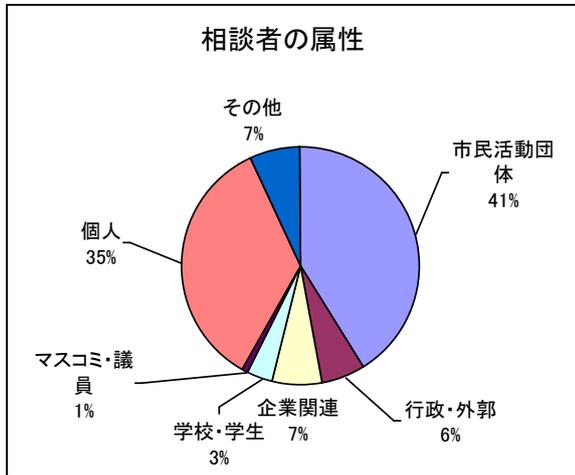


▲第1回の番組放送時のスタジオの様子

●相談対応

震災後のサポセンには、被災し支援を必要としている方、支援活動を行う市民、市民活動団体、NPO・NGO、企業などから多くの相談が寄せられました。3月28日から11月30日までの相談件数と内訳は下表の通りです。

問合せ・相談総数（件）	707
【内訳】 ※1件のご相談で複数内訳有り	
①問合せ（場の利用、情報受発信等）	273
②復興支援活動相談	258
③NPO運営相談	84
④シニア活動相談	61



①問合せでは、震災直後は、多くの公共施設が使用できなくなったことから、貸室利用など活動の場についてのお問い合わせが数多くありました。

②復興支援活動相談では、4月～5月中旬頃までは、救援物資やボランティア活動に関する相談が多く、続いて避難所や仮設住宅での慰問やイベント支援などの相談も寄せられるようになりました。

また、行政では対応が難しい被災者への個別支援についての相談は、収集した市民活動団体の支援活動情報を生かしながら対応しています。

③NPO運営相談は、復興支援に関わらず市民活動団体、NPOの運営全般に関して受けた相談件数です。震災後の特徴としては、団体立ち上げ・法人化相談が増えたことがあげられます。継続して復興支援活動を展開していく上で、個人の活動から組織の活動へと検討される方々からの相談は、震災後の4月から始まり、11月末までの累計相談数は52件で前年度のほぼ倍の件数となりました。

また、7月からは④シニア活動相談も再開し、震災後に地域のために貢献したいと考えるシニア世代の相談にも対応しています。

●地域とNPOの支援活動をつなぐ

サポセンは、被災した地域が抱える課題を市民活動団体、NPOの支援活動とつなぎ解決するため、ボランティアセンターなど地域拠点と連携しながら、支援活動を行いました。

特に津波により甚大な被害を受けた宮城野区、若林区は、3月に開設した災害ボランティアセンター（運営主体：社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）へスタッフを派遣し運営面で協力しました。災害ボランティアセンターで受けるご相談には、個人のボランティアでは対応しきれない専門性を有した支援が必要な場合もあります。ボランティアセンターの現場にサポセンスタッフが入ることで、被災者からのご相談に素早く対応し、市民活動団体・NPOの支援への確につなぐことができました。



▲宮城野区災害ボランティアセンターの様子

なお、災害ボランティアセンターが閉鎖した後も継続的に地域にお伺いし、ご相談に応じています。これまで、宮城野区岡田地区では、地域コミュニティの絆を取り戻すための復興まつりの開催や、仮設住宅での入居者同士のコミュニケーションづくりを目的とした行事開催などについて、企画段階からご相談を受けサポートしてきました。地域住民だけでは解決できない課題が、市民活動団体と一緒に取り組むことで解決するケースもあります。サポセンは、地域と市民活動団体をつなぐ役割を果たしながら、協働による復興活動を支援しています。

宮城野区や若林区での復興支援活動については、2月4日（土）に開催する「復興支援活動報告会 つながることがまちのチカラになる 3.11からの支援のかたち」でご紹介します。詳しくは、P6のサポセンからののお知らせをご覧ください。

震災から10ヶ月が経過し、被災地では復旧から復興への取り組みが続く中、ボランティアや市民活動団体・NPOが担うべき役割はますます重要になっています。サポセンはこれからも、ともに震災復興に取り組んでいきます。

（小松 州子）

市民活動サポートセンターからのお知らせ

復興支援活動報告会

「つながることがまちのチカラになる 3.11からの支援のかたち」

2011年3月11日の東日本大震災発生後、それぞれの地域で多くの市民・NPO/NGO・企業・行政などが救援活動、復旧・復興支援活動を行ってきました。その中では、緊急の課題や複合的な問題に対応するため、各セクターが連携して支援活動を展開してきた例が多くあります。発災後約1年を迎えようとしているこの時期に、事例を基に「つながり」についてふり返し、その成果や課題を明らかにしながら、今後の支援活動やまちづくりのあり方について考えます。

■活動事例報告

- ①NPO+NPO ～同じ課題に向き合う全国ネットワークの力～
- ②地域住民+NPO ～被災地域・地縁組織とNPOの出会い～
- ③地域資源+NPO ～多様なつながりを、新たな地域の力へ～
- ④企業+学生ボランティア ～学生の機動力を生かす企業の力～
- パネルディスカッション
地域の課題を解決する協働 ～東日本大震災から見えたこと～



日時：2012年2月4日（土） 13:00～16:30

場所：仙台市市民活動サポートセンター
6階セミナーホール

定員：80名（申込必要）

参加費：無料

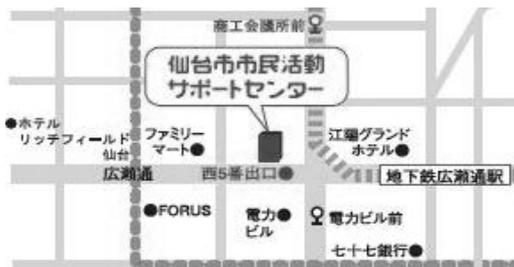
お問合せ先：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

※詳細はチラシまたはHPをご覧ください。

■仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注)路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄]広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■開館時間

○平日／午前9時～午後10時

○日祝／午前9時～午後6時

1月の休館日

第2水曜日 1/11

第4水曜日 1/25



■シニア活動支援センターとは

シニア活動支援センターは、シニア世代の地域・社会参加活動を応援しています。お気軽にお問合わせください。

○開館時間 平日／午前10時～午後8時
日祝／午前10時～午後6時

○休館日 毎週水曜日

■編集後記

2011年の漢字は「絆」。地域の絆、全国の絆、そして全世界からの絆を感じる一年でした。被災地では今も多くの絆で結ばれた人たちが、復興へ向けて汗を流しています。地縁組織、NPO、企業、行政、学生・・・つながりあった絆を振り返るべく復興支援活動報告会を2月4日に開催します。ぜひご来場を。（スタッフ一同）

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2012年1月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子

●復興支援活動情報ブログ

<http://blog.canpan.info/fukkou/>

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]